

岡山県立

博物館だより

79号



<特別展 池田綱政公300年遠諱忌記念事業「護国山曹源寺」より>
池田綱政坐像（曹源寺蔵）

■ 特別展を終えて ……②③

■ 教育普及事業 ……⑥⑦

■ 交流展を終えて ……④

■ 博物館 NEWS ……⑧

■ 企画展を終えて ……⑤

■ INFORMATION ……⑧

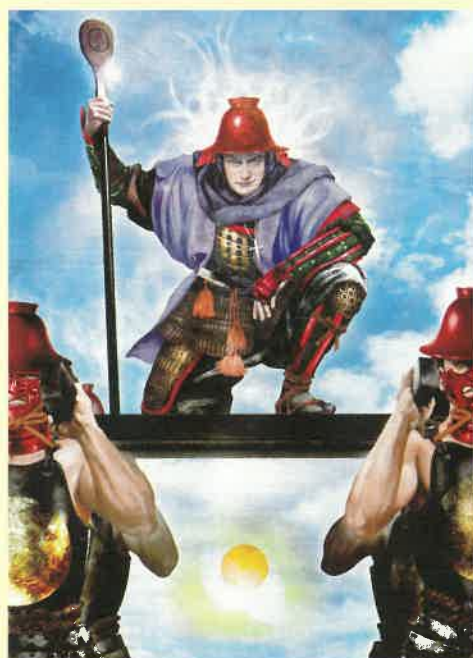
■ 映像記録作成事業 ……⑤



<交流展 「戦国大名 宇喜多氏と長宗我部氏」より>
重要文化財 長宗我部元親画像（高知市秦神社蔵）



<特別展 「山田方谷」より>
山田方谷肖像 平木政次筆（個人蔵）



企画展 「岡山の城と戦国武将」
<同時開催 「正子公也 戦国武将画展」より>
黒田官兵衛（正子公也作）

特別展「山田方谷」

会期：平成26年5月23日(金)～6月29日(日)

山田方谷(1805-1877)は、江戸時代末期から明治時代初期にかけて活躍した儒学者で、備中松山藩士です。藩政改革を



広報ポスター

行い、短い期間で藩財政を立て直した人物であり、その手法は、近年注目されています。

本展覧会では、方谷の手紙や漢詩のほか、関連する資料を用いて、激動の時代を生きた方谷の生涯を振り返りました。また、方谷から影響を受けた多くの門人など、関係する人たちも紹介しました。

第一章「陽明学者山田方谷の誕生」では、方谷が誕生してから、丸川松隠や佐藤一斎に師事し、備中松山藩の藩校有終館の学頭になるまでを紹介しました。方谷が、一斎から与えられた書「尽己」は、154cm×89cmの本紙に大筆で力強い字が書かれています。初めは折り畳んでいたものを、明治2(1869)年に軸装にしたことが八双に記されています。この年、方谷は長瀬の塾舎を増築しました。師の書を掲げる



佐藤一斎書幅「尽己」(個人蔵)

ことで、教育者としての自らを奮い立たせる66歳の方谷の姿が目浮かぶようです。

第二章「政治家山田方谷と備中松山藩の幕末」では、青年藩主板倉勝静と方谷の関係から、備中松山藩の藩政改革、そして大政奉還後の備中松山城の無血開城までを取りあげました。方谷の書状からは、政治家山田方谷の特徴が見えてきます。一つは、情報収集につとめていたこと。江戸や大坂の相場情報を収集し、それをもとに経済活動を行ったことが分かります。もう一つは、現場主義。自ら農地や鉱山に出向き、農民や鉱夫から話を聞いて指示をしたり、出陣した後に、自軍の大砲の改良点を郡奉行に提案したりしています。これらは、方谷の実像を知る貴重な資料といえます。

第三章「教育者山田方谷(江戸時代)」では、藩校有終館や家塾牛麓舎での、教育者としての方谷と、その主な弟子たちに

焦点を当てました。

河井継之助記念館(新潟県長岡市)からお借りした越後長岡藩士河井継之助の日記『塵壺』は、特に注目を集めました。継之助は、安政6(1859)年、藩政改革を学ぶため方谷のもとを訪れます。『塵壺』には、方谷から影響を受けていく継之助の様子がよく表れており、これをもとに、司馬遼太郎の小説『峠』が作られました。

第四章「教育者山田方谷(明治時代)」では、長瀬塾(現高梁市)、小阪部塾(現新見市)などの方谷の私塾と、方谷が講義を行った閑谷精舎(現備前市)、明親館(現真庭市)、知本館(現美咲町)、温知館(現美咲町)での教育と主な弟子たちについて紹介しました。

期間中には、2回の記念講演会を実施しました。河井継之助記念館の稲川明雄館長からは、「山田方谷と河井継之助」、二松學舎大学町泉寿郎教授からは「高弟三島中洲からみた山田方谷」というテーマでお話いただきました。それぞれ180人、168人とたくさんの聴衆を集め、熱気あふれる会となりました。

会期中は、約4,500人の方に御来館いただきました。山田方谷の顕彰は、決して十分とはいえません。方谷の名前は知っていても、その業績等は理解されていないのが現状です。多くの資料を集めた本展覧会が一つの契機となり、顕彰や研究がいつそう進展することを願っています。(副参事 竹原伸之)



稲川明雄河井継之助記念館長



町泉寿郎二松學舎大学教授

特別展「曹源寺」

会期：平成26年10月10日(金)～11月16日(日)



広報ポスター

岡山市中区円山にある曹源寺は臨済宗妙心寺派の名刹です。この寺は二代岡山藩主池田綱政が、高祖父池田恒興と父池田光政の菩提を祈るため、池田氏の菩提寺として元禄11(1698)年に建立したものです。池田綱政は津田永忠等を用いて優れた藩運営を行うと共に、御後園(現在の岡山後楽園)を造営しました。また、神仏を深く信仰し、

曹源寺の造営に際して自筆の和歌や絵画などを納めました。曹源寺は綱政以後、歴代岡山藩主の菩提所となったため、藩主の肖像画や肖像彫刻、自筆の絵画や墨跡などが多数所蔵されています。

平成26年は、池田綱政の300年遠諱にあたることから、曹源寺の寺宝を一堂に集め、その歴史や池田氏との関わりを紹介しました。

曹源寺における藩主の信仰と、関連する美術品を紹介



第1章の展示の様子

今回の展覧会は三章からなります。第一章の「池田綱政と曹源寺」では、曹源寺建立によせた、綱政の信仰心を紹介しました。ここでのメインは曹源寺の仏殿(本堂)で祀られる池田綱政坐像です。この像は綱政の姿を寸分違わず写し取って造ったとの記録が残ります。他にも曹源寺の初代住職を務めた絶外宗純あてに、綱政が書いた自筆の書状を展示しました。綱政はこの書状の中で、曹源寺に絶外を迎えることができて、長年の願いがかなったと喜びを表しています。他にも、宝永5(1708)年頃の曹源寺の様子を描いた絵図が注目を集めました。この絵図は幅2mを超える大きなもので、この前年に綱政の寿陵(生きている内に造る墓)が完成し、寺域が確定した事を受け、制作されたものです。

続く第二章「岡山藩主・池田氏と曹源寺」では、綱政の跡を受けた岡山藩歴代藩主が曹源寺に納めた寄進から、曹源寺と藩主・池田氏との関わりを紹介しました。ここでは三代岡山藩主の池田継政坐像以下、5人の岡山藩主の肖像彫刻を展示しました。あわせて肖像画も展示し、肖像画と比較しながら肖像彫刻を見てもらえるように工夫しました。なお、曹源寺には綱政以降、歴代の岡山藩主の墓があり、池田家正覚谷墓地として国の史跡に指定されています。

最後に第三章「曹源寺の美術」では、曹源寺に伝わる様々な美術品を紹介しました。なかでも、山門彫像は圧巻でした。これは曹源寺山門二階に安置される、釈迦如来と十六羅漢の木像です。このうち釈迦如来は修行中の釈迦を表したもので、伸ばした髪の毛を結び上げる、宝冠釈迦如来と呼ばれる姿です。十六羅漢像には一人一人表情の違いがあり、表面には制作当時の彩色がよく残っていました。

その他にも、岡山藩の御用絵師を務めた狩野派の絵画や、茶道具のコレクションを展示しました。茶道具のうち、江戸時代の初め頃に作られたと尻張釜は、寺伝で池田綱政が奉納したと伝わるものです。

曹源寺の歴史と文化を考える関連行事

会期中の関連行事として、曹源寺住職原田正道氏、川崎医療福祉大学元教授の神原邦男氏、関西大学文学部教授の長谷



講演会の様子

洋一氏による特別講座「曹源寺」を開講しました。各講師とも、様々な切り口から曹源寺の歴史と信仰に迫る内容であり、好評を得ました。また、岡山藩主の墓所と曹源寺の境内を訪ねるウォークラリー『曹源寺の文化財を訪ねる』も合わせて開催しました。普段公開されていない建物内部を巡りながら、参加者一同で曹源寺の文化財の大切さを再確認しました。

展覧会を終えて

本展では、絵画・墨蹟・彫刻・文書や工芸品など、様々な文化財から曹源寺の歴史と文化を紹介しました。会期中は約8,100人の皆様に御来館いただきました。今後も、岡山藩主池田氏に関連する作品や、県内の寺社に伝わる様々な文化財から、岡山県の歴史の実像に迫りたいと思います。

(学芸員 和田 剛)

交流展を終えて

平成26年度岡山・高知文化交流事業 「戦国大名 宇喜多氏と長宗我部氏」

会期：平成27年1月16日(金)～2月15日(日)

最終年を迎えた岡山・高知文化交流事業は、高知県立歴史民俗資料館の協力を得て土佐の戦国大名長宗我部氏と、備前・美作の戦国大名字喜多氏の文化財を紹介しました。

土佐の代表 長宗我部氏

展覧会は長宗我部氏と宇喜多氏の二つの戦国大名の文化財約50件の資料で構成しました。

長宗我部氏に関しては、長宗我部元親画像や元親が発給した書状等を中心に展示しました。長宗我部元親については、勇敢に槍を振り回すなどして戦うイメージが強いかもしれませんが、実際には親戚である室町幕府家臣の石谷氏などを通じて、畿内の情報を得ながら冷静に戦略を立てていました。また、元親を支えた弟 香宗我部親泰の陣羽織や甲冑も展示しました。

天正3(1575)年に土佐国を統一した後、天正6年に織田信長と通じるようになり、信長の支持を受けながら四国制覇を目指します。天正10年の本能寺の変以降、秀吉と対決することになった元親ですが、実際には激しい戦闘に至る前に秀吉に服従します。そのため、島津氏を討伐する秀吉の先兵として出陣した長宗我部氏ですが、大分県にある戸次川の戦いで嫡男信親を失います。その信親が使っていたと伝わる甲冑と、戸次川の戦死者を記した鑑板(複製)、さらには嫡男の死を悼む長宗我部元親書状(石谷家文書)を並べ、大名の悲哀を感じていただけたようにしました。

備前・美作の代表 宇喜多氏

宇喜多氏に関しては、宇喜多能家画像や直家書状等を展示して、どのように備前国を支配するようになったのかを見ていただきました。残されている文化財が少ない宇喜多



展覧会の様子

氏ですが、断片的にせよ残っている資料をしっかりと見つめることが、宇喜多氏の事績に触れることのできる近道だと考えました。

また、宇喜多直家の主君であった浦上宗景書状(個人蔵)も展示して、宇喜多直家以前に織田信長とつながった大名がおり、その基盤も含めて直家が備前・美作を支配していったことも展示できました。

長宗我部氏の視点からみた「天下」に触れる関連行事

関連行事として、高知大学人文学部教授 津野倫明氏による記念講演会「天下人と長宗我部元親」(1月31日(土))と、林原美術館学芸課長 浅利尚民氏と私による最新研究報告「石谷家文書について」を行いました。津野氏は、「長宗我部元親は天下



津野氏講演会の様子

人である織田信長に、天正6年に従属し、その力を背景にして四国全土をほぼ制覇した」「豊臣秀吉との対決の後には、豊臣大名として九州出兵へ出陣し、信親を失う等の痛手に耐えた」等のお話くださいました。また、石谷家文書についても触れられ、四国だけではなく、日本史研究上でも重要な知見を提供することになるだろうと述べられました。

2月7日(土)に行われた最新研究報告では、昨年6月下旬に行った記者発表以来注目を浴びている林原美術館蔵石谷家文書について、現時点でお話できるところまで紹介しました。日本史最大のミステリーとされる本能寺の変の直前に書かれた書状の発見など、今後の日本史研究においても注目される資料のことについてお話ししました。

会期中の4日間、当館ボランティアが春から勉強してきた成果を生かして展示ガイドを行いました。今回は、高知県立歴史民俗資料館のボランティア「カルサポ」の皆さんも来館して、合同でのガイドを実施しました。土佐弁も聞こえる展示室は、まさに人とモノとの交流の場となりました。



ボランティアガイドの様子

展覧会を終えて

本展は約5,600人に御来館いただき、「長宗我部元親の文化度の高さに驚いた」「宇喜多直家が梟雄ではなく、戦略眼に優れた大名だったことを知ることができた」などの感想が寄せられました。今、本能寺の変を巡って注目が集まりつつある長宗我部氏と、残されている資料を丹念に読み取っていくことで岡山の礎を作ったこと、の分かる宇喜多氏に今回の展示でふれていただけたのではないかと思います。

なお、高知県立歴史民俗資料館では、10月11日(土)～12月7日(月)に「長宗我部氏と宇喜多氏」が開催されました。

(主幹 内池英樹)

企画展を終えて・映像記録作成事業

企画展「岡山の城と戦国武将」

会期：平成26年7月31日(木)～9月7日(日)

近年、戦国武将が全国的なブームになっており、いわゆる歴女に代表されるように、性別や世代を越えた社会現象になっていることは皆さん御存知だと思います。そして戦国武将と並んで人気なのが「城」です。

本展では、国史跡・県史跡を中心に、備前・備中・美作地域の主要な城を取り上げ、これらの出土品・絵図・古文書、関連する戦国武将ゆかりの武器・武具など50件の文化財を通じて、最新の発掘調査や歴史研究の成果を展示しました。

そして、同時開催として、「正子公也戦国武将画展」を行いました。正子氏は岡山県出身で、歴史・武将イラストの第一人者として活躍中です。今回は、黒田官兵衛・伊達政宗など有名武将はもちろん、宇喜多直家・秀家や常山城の鶴姫ら岡山ゆかりの武将に加え、描き下ろし新作4点を含む35作品を展示しました。また、会期中には正子氏による「戦国武将トークライブ＆サイン会」や、森本基嗣氏(城郭研究家)と澤山孝之氏(岡山県古代吉備文化財センター調査員)による山城講座を行いました。

さらに今回は、林原美術館「武士のダンディズム」展、備前長船刀剣博物館「戦国無双の刀剣」展と連携し、「岡山夏の陣」と

題したスタンプラリーを実施しました。

本展では、地域の歴史を物語る貴重な文化財である城の魅力を紹介し、会期中約6,700人に御来館いただきました。そして、城と戦国武将、文化財と現代アートのコラボレーションによって、幅広い世代に歴史を楽しんでいただく機会となりました。

(学芸員 佐藤寛介)



展示風景

吉備の国文化遺産映像記録事業

平成24年度より三カ年計画で進めてきた吉備の国文化遺産映像記録作成事業は、今年度が最後になり、30テーマの映像ができあがりました。本事業では、岡山県立博物館の所蔵資料を中心に撮影し、関連する県内の史跡の映像と合わせて、約3分の映像を作成してきました。

主な内容は、博物館所蔵の資料の紹介および、代表的な展

示テーマに基づき、岡山の歴史と文化を概観できるものを構成の柱としました。一年毎に10のテーマを企画し、構成した映像記録の内容は、岡山県立博物館において年間で展示する各分野、民俗や工芸等のテーマに基づいた代表的な館蔵資料の紹介とそのテーマに関わる歴史を最新技術の鮮やかな映像によって紹介しています。

今年度は、岡山県のお古墳や仏教美術、薬などを取り上げて、関係する場所のロケも含めて撮影・編集を行いました。そして、視聴する方に向けての内容や児童、生徒向けと使い分けができるように、キャラクターが登場し、案内するバージョンも作成しています。

できあがった映像は、岡山県立博物館ロビーで視聴できるように映像を流しております。また、すべてのテーマは、岡山県立図書館のサーバーにおさめ、いつでもご覧いただけるようになっています。岡山県立博物館のホームページからも、該当のページへのリンクを設定しています。

3年間かけて作成してきた吉備の国文化遺産映像記録。今年度の岡山の歴史と文化の10のテーマとあわせて、30テーマの映像をぜひ鑑賞ください。(主幹 内池英樹)



博物館内での撮影風景

教育普及事業の概要

平成26年度も児童・生徒・一般の方々を対象にさまざまな教育普及事業を実施しました。

館内授業・出前授業



館内授業



特別支援学校出前授業



出前授業

本館で実物資料に触れ、展示見学を行う「館内授業」、学芸員が実物資料を持参し、小中学校で実施する「出前授業」は大変好評で、今年度も多くの学校にご利用いただきました。展示会にあわせての見学や、テーマに基づいた授業、博物館のバックヤード見学も好評です。展示見学では、(お気に入りの文化財を一点探ることができるように、) 10～15分の時間を設けて、子どもたちが館内を自分自身の興味に基づいて見て回れるような工夫もしました。考古や民俗の分野等の出前授業は、年間23校の利用がありました。

学芸員による展示解説

展示会期間中の毎週土曜日、通常展の期間中は第2、第4土曜日の午後2時(時には午前10時)から、学芸員が展示内容を分かりやすく解説しています。今年度も毎回多くのお客様にお越しいただきました。



企画展岡山城と戦国武将 展示解説



特別展山田方谷展示解説

中学生職場体験

今年度もチャレンジワークとして岡山市内の中学校2年生(11校29名)が博物館業務を体験しました。文化財を守り、来館者へ分かりやすく見てもらうように展示する仕事が、自分たちが考えていたよりも大変だったようです。



古文書の取り扱い



刀の取り扱い



文化財の写真撮影



展示の準備

博物館実習

8月には学芸員をめざす県内外の大学生10名が博物館業務の実習と、講演会など博物館活動を支援する実習に取り組みました。資料の取り扱いや来館者への対応など真剣に取り組んでいました。



講演会の支援実習



考古資料の取り扱い実習

吉備の国ジュニア歴史スクール

「吉備の国ジュニア歴史スクール」も6年目を迎え、今年度は「江戸時代の教育 閑谷学校体験コース」と「岡山の伝統技能 郷原漆器体験コース」の2コースで実施しました。参加校は、新庄村立新庄小学校3～6年生(29名)、備前市立伊部小学校6年生(41名)でした。

「閑谷学校体験コース」第1日目は、国宝の旧閑谷学校講堂で、論語を学習しました。「郷原漆器体験コース」第1日目は、郷原漆器の館にご協力いただき、手びきろくろを使った木地師体験と、落花生に漆を塗る塗師体験をしました。第2日目は、それぞれ博物館で実物資料に触れながら授業を受け、あわせて展示室も見学しました。



第1日 手びきろくろによる木地師体験



第1日 旧閑谷学校で講堂学習



第2日 展示見学



第3日 劇にして発表

この2日間の成果を各学校でまとめ、プレゼンテーションソフトを使ったり、また、劇や紙しばいにしたりして学習発表会や学校公開日に発表しました。今年度の事業の様子は、報告集にまとめて県内すべての小学校へ配布しています。



26年度報告集



下敷き

博物館講座

県民を対象にした「岡山の歴史と文化」をテーマに行う講座で、スタンダード・スペシャルの2コースを開講しています。

前者は、学芸員が平素の研究成果を博物館資料に基づいて講義するもので、全8講座(6月から7月、火曜日・木曜日開講)116名が受講しました。後者は、各研究の第一人者である講師による専門的な講座で、全4講座(9月～11月)を80名が受講しました。



スタンダードコース



スペシャルコース

ジュニア学芸員講座

「ジュニア学芸員講座」は、中学生・高校生が「ジュニア学芸員」として博物館の仕事を実際に体験し、本物の文化財を通して岡山の歴史と文化を学ぶものです。

今回は14名が参加し、8月5日(火)～7日(木)の計3日間にわたり、様々な分野の文化財の取り扱いや、史跡見学、発掘調査、博物館行事などを体験しました。

参加生徒たちは全員熱心に取り組み、多くのことを学んだようです。今回の講座が、将来の学芸員や博物館ファンを育む機会になることを期待しています。また、講座の様子をまとめた報告集も作成しましたので、ぜひ御覧ください。



文化財(日本刀)の取り扱い

寄贈資料紹介

今年度の展示活動に関わって以下の関係資料が当館に寄贈されました。寄贈してくださった方々のご趣旨に沿う形で、長く保存と活用及び公開を図っていきたいと考えております。ご寄贈ありがとうございました。

- ・「村田銃」(鉄砲) 1挺
- ・「ゲートル、陸軍軍服夏・冬用ほか戦争関係資料」39件
- ・「山田方谷屏風」 六曲一隻
- ・「サザエさんほか」 45冊
- ・「萌黄糸威二枚胴具足」 1領
- ・「古川古松軒関係資料」 11件



山田方谷屏風



古川古松軒肖像画 岡本豊彦筆

(副館長 三宅克広)

INFORMATION

●●●●● 平成27年度の展覧会予定 ●●●●●

特別展 「破格ー桃山備前ー」

会期 平成27年9月18日(金)～11月8日(日)

特別展 「発掘された日本列島2015」

会期 平成27年11月13日(金)～12月23日(水)

企画展

カルチャーゾーン30周年記念事業
「岡山カルチャーゾーンの魅力」

会期 平成27年7月16日(木)～9月12日(土)

交流展

岡山・鳥取県交流事業「鳥取藩池田家32万石」

会期 平成28年1月22日(金)～2月21日(日)



重要文化財 老子像 牧谿筆
(岡山県立美術館蔵)



備前焼花入 銘太郎庵(個人蔵)



栃木県下野市 甲塚古墳 馬形埴輪
(下野市教育委員会蔵)



池田光仲画像(鳥取県立博物館蔵)

岡山県立博物館だより 第79号

発行日/平成27年3月1日

発行者/岡山県立博物館 館長 谷名 隆治

〒703-8257 岡山市北区後楽園 1-5

TEL:086-272-1149 FAX:086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>



この用紙は古紙・再生紙を含んでいます。